

## 出稼ぎ労働者の飲酒様態調査

魚津保健所 柏樹 悦郎  
 富山保健所 中川 秀幸  
 富山医科薬科大 成瀬 優知  
 福井県立精神病院 草野 亮

### I はじめに

近年、アルコールの消費量の増加に伴ってその個人的影響のみでなく、社会的影響も大きくなりつつある。このアルコール消費量が人に及ぼす要因には様々なものが考えられるが、その大きなものの一つとして労働環境があげられる。実際、職業形態の違いによって飲酒様態が異なることについては、多数の報告がある。<sup>13)~16)</sup>

私達は、飲酒様態が顕著な傾向を示すと考えられる職業形態として、出稼ぎ労働者の調査を行った。今回は、まずこれらの人々の飲酒様態と健康状態について述べる。

### II 対象

対象とした水谷地区は富山県の常願寺川上流にあり、車で2時間を要する町まで人里が全くない山間地である。そこでの労働形態は砂防ダム工事に関するもので、土木作業員、大工、重機運転手、トラック運転手などの労働者が大半を占めており、全員が宿舍生活をしている。宿舍地区には、看護婦(1名)の常駐している診療所が開設されており、月1回診療のため町の病院より医師が派遣されている。

この調査の対象者は、男女計245名であるがそのうち男性全員の226名について解析を行った。年齢別にみると、40代50人、22.6%、50代76人、33.6%と多く、既婚者が195人、

86.3%と大半を占めている。出身地は、青森県94人、41.6%、富山県93人、41.2%と多くその他新潟県、石川県、大阪府、宮崎県などであった。

### III 方法

調査は、昭和60年8月8日、9日の2日間にわたり、労働時間中に、検診会場までおもむいてもらって行った。方法は、聞き取り法による飲酒様態調査及び尿検査(尿蛋白、尿糖、潜血、ウロビリノーゲン)、循環器機能検査(T-CHO, HDL-CHO, 心電図)、肝機能検査(GOT, GPT,  $\gamma$ -GTP, ZTT, TTTetc.)等の健康調査である。調査日水谷地区に在住していた全労働者において調査が可能であった。

### IV 結果

#### 1. 飲酒様態

飲酒頻度については、「毎日飲む」群が70.8%と最も多く、特に50代に「毎日飲む」

表1 飲酒頻度 (%)

年齢 \ 頻度	I	II	III	IV	全体
~39	68.7	19.4	3.0	9.0	29.6
40~49	66.0	14.0	6.0	14.0	22.6
50~59	80.3	9.2	0	10.5	33.6
60~69	60.6	6.1	12.1	21.2	14.2
全体	70.8	12.9	4.0	12.3	100.0

I : 毎日 III : ほとんど飲まない  
 II : 週1~6日 IV : やめたと飲まない

表2 飲酒量 (清酒換算)

	50%ile値
年齢	
～39	1.6合
40～49	2.2
50～59	2.1
60～69	1.8
飲酒頻度	
I	2.1
II&III	1.6
計	2.0

者が多かった。(表1)

一回あたりの飲酒量については、清酒換算して求めたところ、全体では50パーセントイル値が2.0合であり、年齢別にみると40代、50代に飲酒量が多い傾向にあった。飲酒頻度別では、「毎日飲む」群が一回の飲酒量も多い傾向がみられた。(表2)

飲酒理由については、「疲れをなおす」「楽しむ」と答えたものが、全体でそれぞれ30%を越し、次いで「つきあい」と答えたものが、16.7%であった。年齢別にみると、50代、60代に「疲れをなおす」と答えたものが多く、飲酒頻度別では「毎日飲む」群に「疲れをなおす」と答えたものが多くみられた。(表3) また、一回あたりの飲酒量も「疲れをなおす」

表3 飲酒理由 (%)

理由	a	b	c	d
年齢				
～49	27.9	33.7	24.0	13.5
50～	50.0	29.8	8.5	13.8
飲酒頻度				
I	41.3	33.1	13.8	15.0
II&III	26.3	26.3	28.9	7.9
計	38.4	31.8	16.7	13.6

a : 疲れをなおす  
b : 楽しむ  
c : つきあい  
d : よく眠るため

と答えた群に多い傾向にあった。

飲酒上の事故については、「二日酔いによる欠勤」と答えたものが多く、次いで「ケンカをした」と答えたものが多かった。(表4)

## 2. 健診結果 (表5)

### 1) 血圧と飲酒様態

境界血圧者、高血圧者の頻度は、22.1% 28.8%であった。年齢別にみると49才以下では、境界血圧者17.9%、高血圧者19.7%であった。飲酒頻度別にみると、「毎日飲む」群に高血圧が多く、また一日平均飲酒量「2合以上」の群においても「2合以下」の群よりも、高血圧者が多かった。これを年齢別の飲酒様

表4 飲酒上の事故 (%)

事故 \ 頻度	毎日飲む	週4日以上飲む	週1～3日飲む	ほとんど飲まない	以前飲んだが今はやめている
交通事故	2.5(5.5)	0.0(3.8)	0.0(1.3)	0.0(1.2)	0.0(1.8)
仕事上のミス	0.6(0.5)	0.0(0.8)	0.0(0.7)	0.0(0.4)	0.0(0.9)
他人に迷惑をかけた	5.0(8.3)	6.3(10.4)	0.0(9.0)	11.1(6.1)	0.0(10.5)
怪我をした	2.5(5.7)	0.0(6.6)	0.0(4.7)	0.0(2.2)	0.0(1.8)
喧嘩をした	6.9(2.9)	0.0(5.1)	15.4(3.6)	1.1(1.8)	12.5(3.5)
二日酔いで欠勤	10.6	17.6	15.4	0.0	0.0
その他	3.8	0.0	0.0	0.0	0.0
なし	75.0	76.5	76.9	88.9	87.5

( )は全国調査 (S46額田ら)

・ P < 0.05

表5 血圧および肝機能検査値異常者の割合 (%)

	血 圧		肝 機 能 検 査 <sup>1)</sup>		
	境界血圧	高血圧	GOT <sub>40</sub> ≤	GPT <sub>35</sub> ≤	γ-GTP <sub>60</sub> ≤
年齢					
~49	17.9	19.7 <sup>2)</sup> **	6.0	3.4	20.7
50~	26.6	38.5 <sup>2)</sup> **	6.4	0.9	14.7
飲酒頻度					
I	20.6	34.4 <sup>2)</sup> **	7.5	2.5	22.5 <sup>2)</sup> **
II~V	25.8	15.2 <sup>2)</sup> **	3.1	1.5	6.2 <sup>2)</sup> **
飲酒量 <sup>2)</sup>					
2合<	23.3	39.5 <sup>2)</sup> **	12.8 <sup>2)</sup> **	4.7	32.6 <sup>2)</sup> **
2合≥	21.4	22.1 <sup>2)</sup> **	2.2 <sup>2)</sup> **	0.7	8.6 <sup>2)</sup> **
計	22.1	28.8	6.2	2.2	17.8

\* P<0.05, \*\* P<0.01

1) GOT, GPT (Karmen単位), γ-GTP (mU/ml)

2) 一日平均量 (清酒換算)

表6 高血圧者の割合 (%)

		年齢	49歳以下	50歳以上
飲酒頻度	I		24.1	35.7
	II~V		10.5	10.7
飲酒量	2合<		44.4	43.2
	2合≥		21.4	35.4

態でみると、49才以下、50才以上いずれにおいても、「毎日飲む」群、「2合以上」の群に高血圧者が多くみられた。(表6)

#### 2) 肝機能と飲酒様態

γ-GTP値が60以上の割合が17.8%と他の肝機能検査値と比較してかなり異常者の割合が高かった。飲酒頻度別にみると「毎日飲む」群は、γ-GTP値60以上の者が22.5%と多く、一日平均飲酒量「2合以上」の群においても32.6%と多くみられた。また「2合以上」群には、GOT値異常者も多い傾向があった。

## V 考 察

私達は、ここ数年来富山県民の飲酒実態調査<sup>1)~6)</sup>を行っているが、今回は山間地で砂防ダム工事に従事する出稼ぎ労働者を対象に飲酒様態と健康の関連という観点より調査を行った。

飲酒様態において、「毎日飲む」群の割合は、昭和50年富山県の調査<sup>1)</sup>、昭和56年高知県の調査<sup>7)</sup>、昭和56年目黒区の調査<sup>8)</sup>、昭和59年札幌<sup>9)</sup>、静岡、大阪、高知で行われた調査での一般成人男子の40%前後と比較してかなりの高

頻度である。年齢別にみると、特に50代で80.2%と高かった。このことは、対象とした地区の出稼ぎ労働者の生活の中に占める飲酒の比重が大きいと考えることができる。

飲酒量も、昭和56年目黒区の調査<sup>8)</sup>の晩酌量よりも多く、団体生活のため必ず一緒に飲む相手がいるということが、飲酒量を増やす一要因と考えられる。

飲酒理由では「疲れをなおす」「楽しむ」と答えたものが多いことは、今までの推測を否定するものではない。この「楽しむ」と答えた中には、単に酒を飲む行為そのものに加えて、仲間と一緒に飲む楽しみが考えられる。また、仲間と楽しく飲むことが「疲れをなおす」ことになるのかもしれない。

飲酒上の事故では「欠勤」に次いで多かった「ケンカ」は、昭和46年の額田らの調査に比べて多く、有意差が認められた。しかし、全体的にみて、事故が少ないことは、事故を起こした労働者は職場をやめさせられるためであり、この調査では実際にどの程度の事故が起こっているのかはわからない。

飲酒様態と健康については、アルコール摂取と深い関係があると言われている血圧と肝機能についてだけ述べる。血圧については、境界血圧、高血圧者の頻度が昭和55年の循環器疾患基礎調査<sup>12)</sup>と大体同じであり、とびぬけて高血圧者の多い集団ではないと言える。飲

酒様態別にみて、飲酒頻度の多い群、飲酒量の多い群に高血圧者が多い結果が出たことは、注目すべきであろう。飲酒と高血圧の関連性で、その因果関係を示唆する報告は多数<sup>10), 17)~26)</sup>存在する。今回の調査も、労働状況や塩分摂取との関係も考えなければならない問題点はあるものの、飲酒と高血圧の間に何らかの因果関係が存在する可能性を示唆した結果と言えよう。

肝機能については、飲酒量の多い群に GOT 値及び $\gamma$ -GTP 値異常者が多いということから、この地区の労働者における肝機能検査値異常に飲酒が大きく関与していると考えられる。換言すると、肝臓に負担をかける飲み方をしている者が多いということである。

## VI まとめ

(1) 私達は、山間の砂防ダム工事に従事する出稼ぎ労働者男性226名について、飲酒様態調査、血圧、肝機能等の健康調査を行った。

(2) 毎日飲むものが、他の集団と比較して相当多く、また飲酒量も多かった。

(3) 飲酒理由に関しては、「疲れをなおす」「楽しむ」と答えたものが多く、特に高齢者で、「疲れをなおす」と答えたものが多かった。

(4) 飲酒頻度の高いもの、飲酒量の多いものに、血圧の高いもの、また $\gamma$ -GTP 値の高いものが多く、飲酒との関係が示唆された。

今後、私達は出稼ぎ労働者のおかれている社会的環境と飲酒の関係について、さらに調査を継続していく予定である。

## 文 献

- 1) 草野 亮, 柴美喜子, 中川秀幸: 富山県の飲酒を考える, 富農医誌, 13: 52-62, 1982
- 2) 草野 亮, 沖 多門, 菅野利克, 中川秀幸: 富山県民の飲酒実態調査—学校教師の場合—, とやま県医報, No808: 10-15, 1981,
- 3) 草野 亮, 中川秀幸: 富山県民の飲酒実態調査—一般成人男性の場合—, とやま県医報 No848: 12-18, 1983,
- 4) 草野 亮, 山野俊一, 中川秀幸, 柴美喜子: 富山県女性の飲酒状況について, 富農医誌, 14: 69-78, 1983,
- 5) 草野 亮: 飲酒と県民性—文化人類学的考察—, 富農医誌, 15: 69-78, 1984,
- 6) 草野 亮: 呉東と呉西—飲酒からみた女性像—, 富農医誌 16: 50-57 1985,
- 7) 大原啓志, 洲脇 寛, 吉田健男, 久繁哲徳: 高知県成人男子の飲酒実態に関する研究, アルコール研究と薬物依存, 18(2): 170-183, 1983,
- 8) 森 忠繁, 佐々木武史: 東京都目黒区住民の飲酒様態, アルコール研究と薬物依存18: S144-S145 1983,
- 9) 厚生省保健医療局精神保健課: アルコール中毒研究報告, 我が国の精神保健の現状73-183, 1985,
- 10) 上島弘嗣: 飲酒と高血圧, 日本公衛誌, 33(6): 253-257, 1986,
- 11) Kristenson, H et al.: Serum  $\gamma$ -Glutamyl transferase: Statistical Distribution in a Middle aged Male Population and Evaluation of Alcohol Habits in Individuals with Elevated Levels, Preventive Medicine 9, 108-119, 1980.
- 12) 厚生統計協会: 健康増進と生涯保健, 国民衛生の動向, 110-112 1986,
- 13) 額田 榮: 飲酒と労働衛生, 労働衛生, 9(6): 8-13, 1968,
- 14) 大平昌彦他: 各種労働者の飲酒の実態, 産業医学, 11(11): 523-562, 1969,
- 15) 小泉昂一郎: 職場の飲酒問題, 産業医学 13(1): 52-53, 1971,
- 16) 森 忠繁他: 重工業の従業員の飲酒と健康についての調査研究(第3報), 某造船所従業員の飲酒の様態, アルコール研究, 13(1): 7-16, 1978,

- 17) Arkwright, P.D. et al. : Alcohol and blood pressure in a working population, Clin. Exp. Pharmacol. Physiol., 8; 451~454, 1981.
- 18) Dyer, A.R. et al.: Alcohol consumption, cardiovascular risk factors, Circulation 56: 1067~1074, 1977.
- 19) 上島弘嗣, 他: 飲酒量及び飲酒回数と血圧水準との関連—断面調査による検討, 明治生命スタディー—アルコールと薬物依存, 20: S 256~S 257, 1985.
- 20) Ueshima, H. et al: Alcohol intake and hypertension among urban and rural Japanese populations, J. Chronic Dis, 37: 585~592, 1984.
- 21) 馬場俊六, 他: 断面調査による高血圧と飲酒—食塩摂取量との関連に関する研究—日本公衛誌 32: 719~724, 1985.
- 22) 上島弘嗣, 他: 食塩と血圧に関する国際共同研究 (INTERSALT STUDY), 一高血圧の成因としての飲酒—大阪一, 日衛誌 41: 306, 1986.
- 24) Mathews, J.D.: Alcohol use and coronary heart disease, Clin. Sci, 51:661s~663s,1976.
- 25) Kannel,W.B. and Sorlie, P.: Hypertension in Framingham in "Epidemiology and Control of Hypertension", Paul O eds, Stratton, NewYork, 553~592, 1975.
- 26) Takahashi, E : Ecologic Human Biology in Japan, Medical Information Services, Tokyo,1978.